埼玉特集

日さく

わが国初の機械掘り井戸掘削工事会社

2017年度全社合同社員旅行

日さく（本社＝さいたま市）は、1912（明治45）年東京丸の内で創業（当時の社名は日本鑿泉合資会社）。わが国で初めての機械掘りによる井戸掘削工事会社。1923年の関東大震災では、同社施工の井戸が損傷を受けることなく地下水を供給でき、井戸が地震に強いことが証明された。

1956年には戦後初の海外事業としてアフガニスタンでの水源井工事を受注。1960年代に地下水採取による地盤沈下が顕在化し、全国各地で地下水採取が規制され、企業存続の危機を経験する。1960～1963年ごろに掘削技術と地下水に関する知見を生かし、地質調査部門、特殊土木工事部門という異分野に進出し企業を存続させてきた。

現在は、「技術を売る会社」として工場を有し、井戸関連製品を製造し自社の施工で使用するだけでなく販売も行っている。今年で創業113年を迎え120年150年に向けてさらなる事業展開を図っている。「伝統的な技術と最新の技術でわが国のみならずグローバルな展開を図り、幸福な社会づくりに貢献する」ことを経営理念に掲げ、会社の存在目的を「社員と家族の幸福」と位置づけている。

人間力向上に注力

同社の若林直樹代表取締役社長は、「人に対して『敬意を持つ』『思いやりの気持ちがあふれている』『感謝の気持ちを持つ』よう社員教育し、それが人間力向上につながることを機会あるごとに訴えている。そのためには、会社が変革する必要があり、当社は、『人を思いやる会社』『人にやさしい会社』『人を大切にする経営』への進化に努めている」と語り、社員の人間力向上に注力している。

社員が働きやすい職場づくりに関しては、健康経営に着目し、人生100年時代を迎え、社員が同社を退職後も健康な生活が送れるよう、さまざまな取り組みを行っている。社外に対しても同様で、とくに外注・仕入先に対しても、良好な関係を持ち続けることが必要との観点から、パートナーシップ構築宣言により、共存共栄を目指している。

「諦めない」DNA

「技術を売る会社」である同社は、若手社員に対して、現場中心主義で徹底したOJTにより、技術・技能の継承を図っている。「当社が113年にわたって事業を継続できたのは、創業時から『決して簡単に諦めない』というマインドがDNAとして受け継がれてきたからだと考えている。技術・技能の伝承のみならず『諦めない』というDNAを受け継ぐべく、教育訓練を行っている」（若林社長）。

強みを生かす

全国規模の企業としては他社にない強みとして、さく井、地質調査、特殊土木工事の3部門を有しており、3部門の連携により、計画・設計・調査・施工・維持管理のすべてに対応可能であり、とくに地下水の分野では他社にない強みを発揮できる。

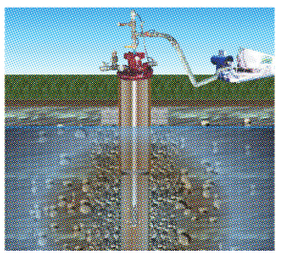
DXへの取り組みとしてさまざまな方策を実行しているが、井戸内水中テレビカメラ映像AI処理システムと井戸用カメラ装置の技術開発に取り組み、特許を申請した。さらに、新型スクリーンの開発やGXへの取り組みとして地中熱の利用にも注力し、地中熱技術に関しては、2022年に彩の国埼玉環境大賞奨励賞を受賞した。

今後の展望

地下水採取は1960年代から規制されてきた。しかし、2014年の水循環基本法制定等により「適正な保全及び利用」という方策が取り入れられ、今後見直すことが期待される。同社は環境問題（特に地盤沈下）に十二分に配慮し地下水開発、とくに防災井戸の普及に取り組んでいく考えだ。

若林社長は、「『諦めない』というDNAをさらに進化させ、顧客の困りごとを自分の困りごとのように親身になって対応することが当たり前になるよう、さらなる人間力向上を図っていきたい。具体的には、顧客から『アフターサービスが抜群』『問題が発生したらすぐに来てもらえる』『接客態度が素晴らしい』という評価を得ることができれば、顧客に価格以外の価値をもたらすことができ、価格競争からも脱皮できる」と語り、こうした対応で企業価値をさらに高めていく考えを示した。

さく井（せい）工事

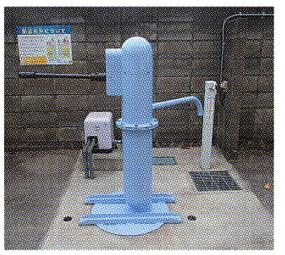
井戸メンテナンス（アクアフリード）


地下水関連設備工事

特殊土木工事

地質調査・建設コンサルタント

海外事業

井戸用設備製造・販売


技術開発

水とともに
歩み続ける
日（にっ）さくの技術

明治45年の創立以来
地下水、地盤に想いをこめて。
社会課題の解決に
取り組んでいきます。

創業明治45年
株式会社 日（にっ）さく
WATER&GEO-TECH ENGINEERS, NISSAKU

〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町四丁目199番地3
TEL：048-644-3911　FAX：048-644-3958